

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000250		
法人名	有限会社サポートハウス		
事業所名	サポートハウス東名ながくて1F		
所在地	愛知県愛知郡長久手町平池406		
自己評価作成日	平成23年11月14日	評価結果市町村受理日	平成24年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成23年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の生活スペースと生活スタイルが確立できる雰囲気・環境があり、お互いが意識し合い、協力し過ごせるよう、利用者の家族・職員が関係を深めながら支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者一人一人が当たり前前の生活が出来る様、個々に合わせた細やかな支援に努めている。職員の子供がホームに遊びに来たことから子供の輪が広がり子供会とのつながりが出来る等、職員の地道な挨拶回りと並行して確実に地域との交流が増えて来ている。運営推進会議でも多くの情報が提供され日々の支援に反映されており、職員の謙虚な中にも意欲的な姿勢がホームの更なる広がりが期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが目にしやすい箇所に掲示し、理念をもとに考え振り返りながら話し合い、取り組んでいる	利用者が当たり前の生活を送れる様「ゆっくり、一緒に、楽しく」を軸に、その時々によってどれが当てはまるか申し送りや日々の業務の中・会議で確認しつつ支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・子ども会の活動に参加しながら、顔見知り、馴染みの関係となれるよう関わり合っている	子供会のつながりで町内の清掃活動・廃品回収に参加したり、近所の公園で行われる地域の消防訓練の炊き出しを体験したりしている。又、敬老会の作品展に「防災頭巾と座布団型のお手玉」を作り出品したりして交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出・散歩・買い物等で、利用者を通して行事へ参加し、関わり続けることで、認知症の理解が得られるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告・話し合いの中での意見等に対し、考え、取り組み、サービス向上に向け役立っている	民生委員より他の施設の状況を聞くことが出来たり、福祉課の職員より瀬戸保健所や厚生労働省のホームページを見ることを勧められたり、地域包括支援センターの行方不明者のおたすけネットワークに登録依頼する等、様々な情報の提供を受けサービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の様子・状況を知らせてもらうために、運営推進会議等で相談・報告し、意見を伺い協力を得て取り組んでいる	2月に長久手町の現地指導検査を受けアドバイスをもらったり、日頃から様々な連携を図っている。又、市主催の研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を掲げ、職員が理念を理解・意識しながら取り組んでいる。勤務中や会議等で、対応方法は拘束にあたるのかどうかを考え、共通認識を図る	職員同士が常に意識しながら業務に当たると共に研修の参加にも意欲的で、フィードバックの場である全体会議や分科会でも話し合い検討して、常に全体の問題として考え認識の共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常時虐待にあたるものなのかどうかを考え、省みながら会議等で話し合い、共通認識のもと取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係者と話し、制度に対する活用方法と理解をするために学ぶよう努めている。個々に応じた活用方法を話し合いながら支援できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々の状況を聞き、契約者の考えや思いを考慮し、問題点の解決・納得が得られる様取り組んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時等、常に話を聞ける環境を作っている。また、家族会での意見・要望・疑問等に対して説明し、理解を得たものを対応をする為、職員の意識が同一となるよう周知徹底している	年2回家族会が開催される他、月に1回サポートハウス通信を送付している。面会時等に家族から出された意見・要望には速やかな対応を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議において会社の方向性を聞き、各施設の分科会で意見や提案を話し合い、各施設の運営の一部になっている	職員からは日常的に、夏祭りに参加したい、新しいレクリエーションを取り入れたい、といった前向きな意見・提案が出されており、支援に反映されている。簡単な要望には管理者・施設長が早急に応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に意欲を持ち向上できるよう、研修参加や資格取得ができるような環境整備に努め、仕事に役立て活用できるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や状況に応じ職場内の勉強会を実施し、向上を図っている。外部での研修後、施設内で活用できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や交流会に参加し意見交換をするなど、ネットワーク作りを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との関わりの中で精神的な不安部分を取り除き、安心できるよう配慮し常に傾聴している。自分らしい生活が送れるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の思い・考えを聞き、信頼関係を作りながら不安部分を取り除き、安心してもらえるよう話をする機会を持ち続けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているものを的確に受け止めるよう、本人と家族が互いに納得でき、ニーズに合わせたサービス利用に努めている。訪問がいつでも出来るような環境や雰囲気作りをしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本位を頭に置き、本人に寄り添い傾聴しながら本人の生活スタイルが作れるよう、お互いに支え合いながら関係づくりを築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や状況など含め、家族と連絡を取り合いながら共に見守り、支援していけるよう関係づくりをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に訪問ができる事や、訪問時過ごしやすい様に配慮する。また、共に馴染みの場所や人に会いに出掛け、関係が継続できるようにしている	昔からの知り合いが家族と一緒に訪れることもある。家族がつき添い、馴染みの美容院へ行ったり散歩や喫茶店・スーパー・ドラッグストア等利用者一人一人に合わせた支援を心掛け、馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるような支援に努めている	個々の状況や状態を把握し、生活スタイルを確立しつつ、家事活動・製作活動や娯楽を通し、皆と互いに関わり合い、支えあえるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	訪問や連絡をとりやすい状況を伺いながら、負担にならないよう配慮し関係をとるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや考え、気持ちを聞き、配慮しながら対応している。絶えず本人が安心して生活できているかを考え、意向に沿えるように対応している	話せる人は意向や要望を本人から聞き、確認しながら対応している。伝えることが難しい人は、表情や日常のしぐさで把握しながら職員間で共有しながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族と状況に応じ、その都度相談しながら安心できるものになる様に気配りしている。アセスメントを閲覧し、職員が把握し取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活スタイルを把握し尊重している。状況や残存能力の変化の把握をして、現状維持の生活ができるよう努める		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時・状況に応じて、本人や家族に意向を聞き、意向に近づけるようにしている	職員から日々の状況と照らし合わせながら聞き取りを行ない、モニタリングは1ヶ月に1回実施している。半年毎の見直しを行ない、介護計画を作成している。家族には面会時や電話にて状態を報告し、要望などあればプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子や状況の記録を通して、職員の対応方法や状況を把握・確認し取り組んでいる。職員の意見や記録状況から、次へのプラン作りに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況変化を訪問時や電話等で伝えられている。いつも話ができる場所をつくり、その都度意向に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店や子供会との関わり合いを続けながら、地域活動へ参加し、地域と関わりながら生活している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師の受診が、本人・家族の意向に合わせてできるようにしている	入居時に希望のかかりつけ医を選んでもらっている。今までのかかりつけ医や専門医へは家族が対応している。カルテなど資料を見て、医者同士が電話などで話し合って連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期往診時に状況報告と体調面での相談・対処方法を伺っている。電話相談もできるので、その都度対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医と本人の状況や症状・治療方法の連絡を取り合い、退院に向けての情報交換や相談等を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族と重度化・終末期の話し合いをし、家族や主治医と連携を取りながら取り組んでいる	重度化についての方針はあり、入居時にサインをもらっている。状態の変化があり、重度化してきた場合、家族、医者、職員との話し合いが段階的に行なわれ、終末期に向けた支援に取り組んでいる。今までに2人の看取りを行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や講習を受けた職員からの資料や、施設内研修にて実践に役立てている。マニュアルや資料等、各自で取得し実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災避難訓練を行い、災害に対する意識を職員間で高めると共に、消防職員からの指導や地域の消防団との防災訓練を通し協力を得ている	3月は日勤帯での利用者と職員との避難訓練を行ない、10月は暗くなってからの夜間訓練を実施している。地域の避難訓練には利用者も一緒に参加している。	避難訓練に近所の人の参加の呼びかけを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人と向き合い、本人に分かる言葉掛けをし、話しやすい環境を作り対応する。個人情報には、場所を設けて保管している	書類は事務所の書庫に保管されている。職員は一人ひとりにあった言葉づかいや対応をしている。また、利用者を損ねたり不穩にさせるような言動や態度には注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状況・状態を踏まえ意向を傾聴する。自己決定に結びつけられるよう、ゆっくりと本人に合わせた対応をし、働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活スタイルが確立している状況を保持しながら、体制づくりをし、自己決定できるよう支援し見守っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服や化粧等、本人の身だしなみで拘りを大切に、配慮しながら都度対応している。散髪時は、本人の好みに合わせてもらえるように、理美容業者と連携を図り対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事を少しずつ行う等、材料選びや食事作りを行っている。また、調理準備から食事に至るまでの話題等での参加もあり、個々の状況を見極め共に楽しめている	業者からメニューと食材が届き、1品だけ作っている。手伝える人は調理の準備や配膳など行なっている。利用者の好みのメニューは再度取り入れるようにしている。利用者の状態に合わせ、ミキサー食や食事介助などの支援を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂り方、体調面等、個々の状況や形態に合わせその都度対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前・食後の口や舌の様子等、口腔ケアを個々の状況に応じ対応している。食べ具合や義歯等の状況を、歯科医の指導を受け清潔にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら言葉掛けに気を配り対応している。個々の排泄状況と身体状況に合わせて、トイレやポータブルを使用し、自立に向けて無理強いせず本人のペースで行っている	個々の排泄チェック表を把握してトイレに誘導している。夜は誘導の人やポータブルを使用している人や2時間おきにパット交換している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態や排便習慣等、身体状況に合わせて排便に繋がる飲食物を摂ったり、日頃から体を動かし予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や訴えに合った時に対応できる環境づくりをし、気分良く入浴できている。個々の入浴状況や形態を把握し尊重している	概ね2、3日おきに入浴している。午前中に入浴したい人にも希望に沿うようにしている。入浴を嫌がるときには、時間や職員を変えて対応して、入ってもらうように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スタイルの確保とともに、身体状況の観察により、対応し支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状や内服状況を説明書により確認し、本人と共に再度確認を徹底し内服する。服用後の本人の状況観察や訴えに注意を払い、主治医と連携し対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人ができることややってみたい事を、本人の価値観を見出し生活を楽しんでいる。お互いを尊重し合いながら存在を認め合い、喜びや楽しみを分かち合えるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族等に本人の意向状況を伝え、連携をとりながら外出している。個人的な買い物や馴染みのお店へ出かけたりと、地域の方々の協力を得て外出の支援をしている	散歩や公園、喫茶店へは日常的に外出している。利用者の要望でコンビニ、薬局、酒屋、化粧品店などへも買い物に出かけている。遠足には家族の協力の下、外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出など、個々の状況に合わせてお金の使い方、管理等ができるよう配慮と支援を続けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や意向に合わせて電話したり手紙を書いたりしている。また家族と連携をとり、本人の気持ちに沿い都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同製作した壁面飾りや好みの懐メロの歌詞等、共通に楽しめるものを掲示している。共通の話題作りをし、居心地の良い空間となるような環境作りに努めている	利用者と一緒に行った季節を感じる壁面飾りが共用空間に飾ってある。ソファがところどころにあり好きな所で寛げるようになっている。また、壁に貼ってある懐メロの歌詞を口ずさむ利用者も居て、居心地の良い空間となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとつの空間の中で、少人数ごとに楽しめる空間作り、家具等の配置に工夫し、お互いに気にならないよう配慮、工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い親しんだ家具や道具等を本人の好みに配慮し、安心して過ごせるように創意工夫し対応している	それぞれの居室には仏壇や使い慣れたタンスなど持ち込まれ、また、好きなスターの写真や家族の写真、自分の作品など置かれており、思い思いに寛げる空間作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の生活スタイルや意向を掴み取り、意欲を持ち生活できるように、個々に合わせた環境作りに努めている		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2375000250
事業所名	サポートハウス 東名ながくて

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 近隣の店舗が認知症サポーター講習を受けていて地域の人々の認知症への理解が深まっており、農協・コンビニ・スーパーへ立ち寄り散歩の際にも顔馴染みとなって声をかけてもらったり手を引いてもらったりと地域とのつき合いが確実に広がって来ている。又、琴やハーモニカ演奏のボランティアもある。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 運営推進会議は2ヶ月に一度開催されている。長久手町役場福祉課職員・地域包括支援センター職員・民生委員・外部評価機関・ホーム職員・利用者の参加で意見交換が行われ、ホームの活動報告をすると共に活発な情報交換がなされている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 長久手町役場とは運営推進会議や電話で日頃から密に連絡を取り合い相談している。又、書類申請・認定更新の際や生活保護の利用者に定期的につき添って出向いている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族には月1回のサポートハウス通信の他、面会時や電話連絡で利用者の状況をこまめに伝え、電話では利用者本人に代わることもある。家族から出された疑問・意見・要望には真摯に対応し、職員全体にも周知徹底する様努めている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件 ○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。 ○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。 ○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	評価 ○ ○ ○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。